

都市構造可視化の活用



北海道 釧路市 都市計画課

1.はじめに

【釧路市の概要】

釧路市は、北海道東部、太平洋岸に位置し、「釧路湿原」「阿寒摩周」の2つの国立公園をはじめとする雄大な自然に恵まれた街であり、東北海道の中核・拠点都市として社会、経済文化の中心的な機能を担っている。

人口：165,077人 ※令和2年国勢調査より

面積：1,363.29平方km（全国第8位）※令和4年全国都道府県市町村別面積調より

主な産業：水産業など



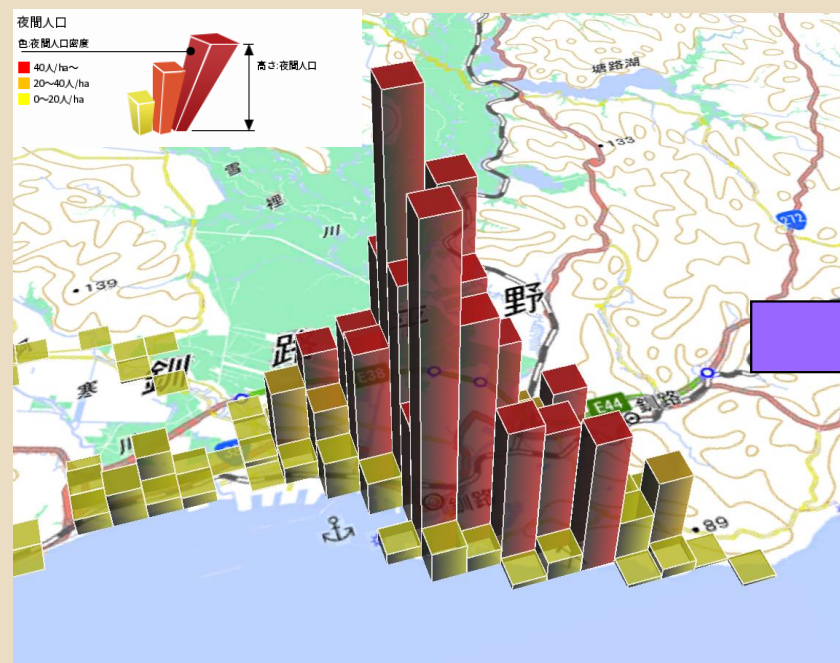
出典：釧路市HP

2. 居住密度の低下

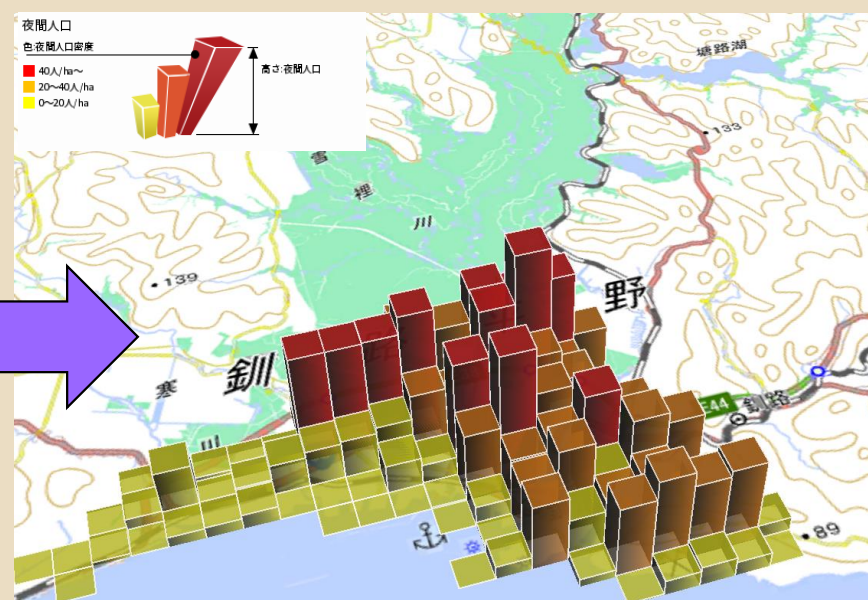
かつては釧路市の中心部に職住一体の市街地が形成していたが、昭和後期以降にて宅地開発が進み、市街地が拡散し、人口が減少している点も人口密度の低下が懸案事項となっている。

【夜間人口分布の経年変化】

〈1970年の夜間人口〉



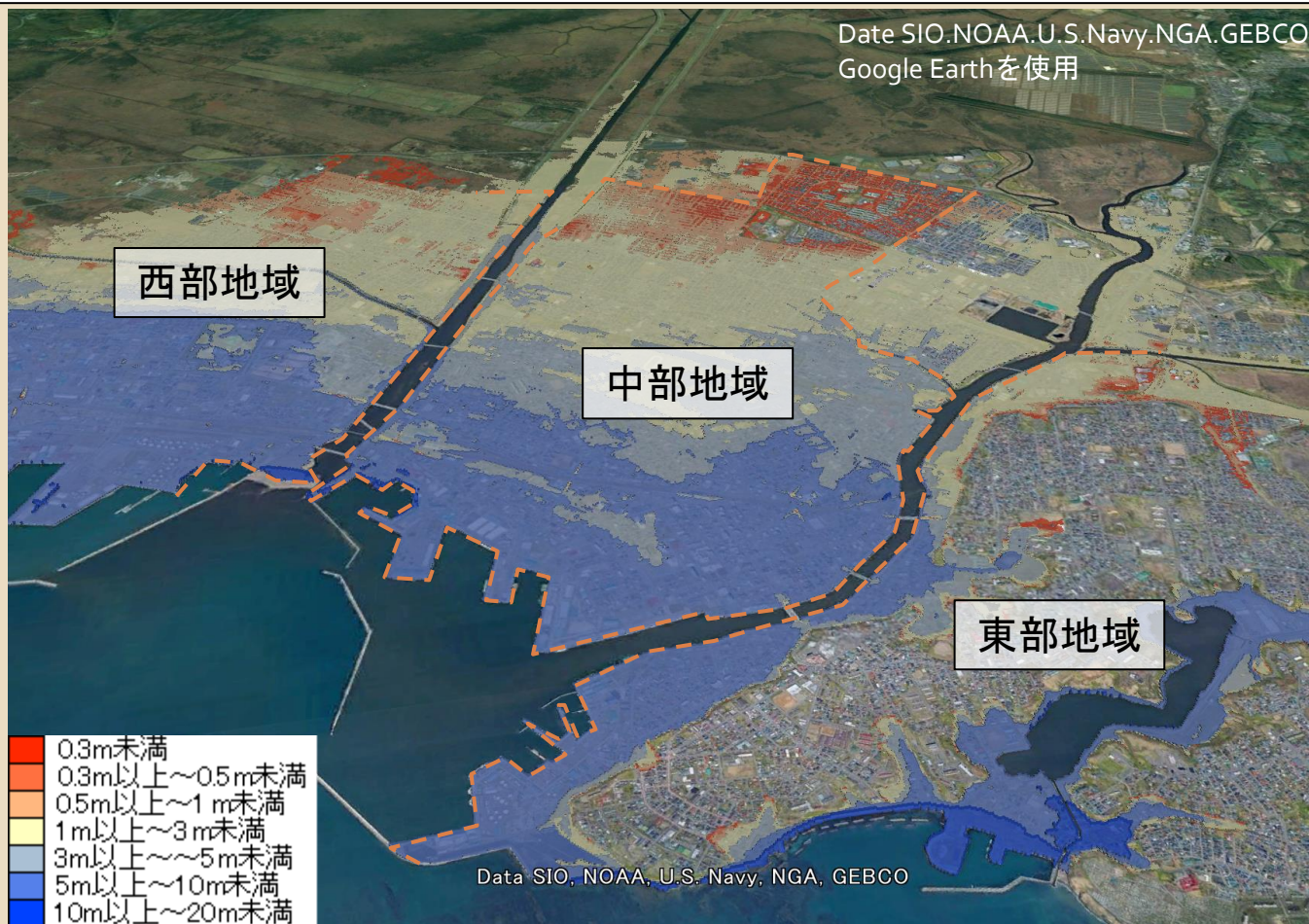
〈2020年の夜間人口〉



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

3.津波浸水想定区域の可視化

海拔の高い東部地域を除いた残りの地域の大半が1 m以上の浸水想定地域にあたり、北海道より公表された津波による死者数は最大で84,000人にもなることが想定されるため、災害に強いまちづくりを進めていくことが必要となってくる。



4.津波による被害の可視化

避難所に指定されている施設であっても、浸水リスクが十分にあり、災害発生により想定されるリスクを適切に分析し、防災・減災対策を整備していく必要がある。



5. 災害に強いまちづくりのために

【釧路市立地適正化計画の改訂】



防災指針の策定

気候変動の影響により、激甚化する自然災害の対応として、災害リスクを踏まえたまちづくりの目標を設定し、災害に強いまちづくりを行うため、都市の防災に関する機能を確保するための指針である「**防災指針**」の策定を行う。

居住誘導区域の見直し

令和4年3月11日に北海道より津波災害警戒区域が指定されたことに伴い、災害リスク、警戒避難体制の整備状況や整備見込み等を総合的に勘案し、「**居住誘導区域**」の見直しの検討を行う。

6.都市構造可視化について

Google Earthにて、津波災害警戒区域を可視化し、情報共有を行った。

担当内打合せの様子



可視化における利点・課題

■利点

- ・平面では表現が分かりにくいものでも立体的になることで、感覚的に理解することができ、多くの方が理解できるデータの作成が可能となる。

■課題

- ・庁内のインターネットは中間サーバーを経由しており、デスクのPCからは、Google Earthが使用できないため、データ作成におけるハードルが高い。

北海道 釧路市

釧路湿原



幣舞橋からの夕日



霧フェス



勝手丼

